

島の未来を、
みんなで作る

宇久島未来 まちづくり プラン

2025.3

宇久島・対馬瀬灯台

佐世保市地域未来共創部
宇久島離島活性化協議会
宇久地区自治協議会

宇久島未来 まちづくり プラン

2025年3月

佐世保市地域未来共創部
宇久島離島活性化協議会
宇久地区自治協議会

CONTENTS

01.	はじめに	
	1. 「宇久島未来まちづくりプラン」策定の経緯と目的	02
02.	宇久島のいま	
	1. 宇久島の魅力	04
	2. 宇久島を取り巻く問題	06
03.	解決すべき課題	
	1. 宇久島の現状 - 市内各地域と近隣市町村との比較から -	08
	2. 住民アンケートから見る地域の課題	11
	3. 宇久島が抱える課題の整理	13
	4. 解決すべき課題とその要因	15
04.	宇久島の将来像	
	1. 宇久島の将来像	16
	2. まちづくりの方向性	17
	3. まちづくりプランの目標	18
05.	まちづくりの取組み	
	1. 将来像の実現に向けたまちづくりの取組み	19
06.	将来像の実現に向けて	
	1. 将来像の実現に向けた3つの柱	25
	2. まちづくりプランを実施する推進体制	26
	3. 実現までのロードマップ（工程表）	27
07.	宇久島未来まちづくりプラン策定に関する資料	
	1. プラン策定までの流れ	28
	2. 用語集	30

1. 「宇久島未来まちづくりプラン」策定の経緯と目的

▶ 宇久島を取り巻く厳しい状況

佐世保港から西方へ約 60 キロ離れた長崎県五島列島最北端に位置する宇久島（寺島含む）。外海に面した国境離島で良い漁場に恵まれ、各地域との交流が盛んに行われ、交流の場としてさまざまな時代を経て発展してきました。島特有の美しい自然とともに、海を渡った人々の交流を偲ばせる遺跡や伝承が残っています。

平成 18（2006）年 3 月 31 日に旧宇久町と旧佐世保市が合併し、佐世保市宇久町となった宇久島では、本市唯一の国境離島といった特殊な地理的条件から、一定の部分において一島完結の行政サービスを提供しています。さらに宇久島は、「有人国境離島法」（平成 29 年施行）において、我が国の領海、排他的経済水域等の保全等に関する活動の拠点としての機能を維持すべき地域の指定を受け、地域社会の維持に関する特別の措置が講じられています。

しかし、宇久島は、市内で最も著しく人口減少や少子高齢化が進んでいる地域となっており、地域の産業を担う働き手は減少し、お店や福祉サービスの維持も厳しい状況になるなど、生活環境も変化してきています。20 年後の推計人口も 1,000 人を切る予測となっており、今後ますます宇久島を取り巻く状況は厳しくなると考えられます。

また、市町合併後 20 年を迎えようとする中で、住み続けたいまちづくりを推進する「佐世保市地域未来共創部」が令和 6 年度に発足し、あらためて、本市唯一の有人国境離島である宇久島の各種機能の点検と将来に向けた一定の方向性を確認する必要も生じている状況もあり、宇久島の持続可能なまちづくりのための行動計画として、「宇久島未来まちづくりプラン」の策定に取り組みました。



宇久島・対馬瀬灯台

▶ 住み続けたい宇久島を目指して

このプランの策定にあたり、課題の問題点を洗い出し、解決に向けた検討を行うため、地域の皆さんとのワークショップやヒアリングをはじめ、住民アンケートや長崎県立大学の協力による地域の魅力再発見などを行い、さまざまな課題やアイデアを出していただきました。その結果、対象領域の広さ、実現性や緊急性の度合い、実施体制が民間なのか行政なのかなど、意見や論点が複雑化したため、これらを性質に応じて、整理を行いました。

1つ目は『私的活動や民間事業』として行われるもので、基本的にこれらは税の投入をすることは適切でないためプランの対象外とし、2つ目は公共施設の維持管理など『行政共通事業』で、本土と比較して、宇久島だけを優先したり、逆に後回しにしたりすることなく公平に対応すべきもので、行政が責任をもって対応すべきものと考えています。そして、3つ目に『**宇久島ならではの課題解決事業**』で、**救急搬送体制の整備や、国境離島としての関係人口増加対策など、宇久島限定で速やかに対応が必要なものについて、このプランの対象として検討**を進めました。

宇久島には、たくさんの課題がありますが、一人で解決できる課題もあれば、多くの人に関わることで解決できる課題もありますし、行政だけでなく、島民の皆さんと共に取組むことで解決につながることもあります。

このようなことから、このプランは、住民一人一人がまちづくりに参加し、宇久島の将来像を実現するためにはどうしたらいいのか、まちづくりのアイデアをみんなでまとめたものとし、**行政と地域住民との「共創」を前提として、「佐世保市地域未来共創部」と「宇久島離島活性化協議会」「宇久地区自治協議会」との共同計画**としています。

まちづくりに携わる行政・地域組織・地域住民一人一人の行動計画となっていますので、この計画を基に、住民一人一人が主役のまちづくりを共に進めていきましょう。



計画作成に向けて開催した住民ワークショップ「宇久島楽園ミーティング」

1. 宇久島の魅力

▶ 島の皆さんが大切にしたい宇久島の「宝」

さまざまな課題がある宇久島ですが、まちづくりを進めていく上で、地域の魅力や個性を生かした取組みが求められます。また、それら地域の魅力を守り、生かすことは島民の皆さんの島への誇り・島への愛着につながるものです。

当たり前だと思っている風景や日常も、あらためて見つめ直すと素晴らしいものがたくさんあります。また、令和5年度から約2カ年をかけて計8回開催した住民ワークショップ「宇久島楽園ミーティング」では、分野ごとに皆さんから出された意見のほか、住民アンケートには「大切にしたい、後世に残したい宇久島の宝」として多くの声が集まり、5つの宝にまとめました。

01

宇久島の宝 01

青い海と空・白い砂浜・豊かな緑の「自然景観」

宇久島では、さまざまな「色」を楽しむことができます。多様な「青」の色を見せる海や空、真っ白な砂浜、鮮やかな緑が彩る大地など、自然が作り出す色の鮮やかさがあり、城ヶ岳からの眺望、大浜やスゲ浜の海岸・砂浜の景色は、守りたい宇久島の風景です。



大浜海水浴場

02

宇久島の宝 02

お祭り・行事などの「伝統文化」

宇久島は古くから信仰が厚く、島の各所に寺社仏閣が築かれており、その影響もあり1年間を通じてさまざまなお祭りが行われています。宇久島神社のしゃぐま棒引き、神浦のひよひよ祭り、八坂神社の祇園祭、神島神社のおくんちなど、島の人々が守り、楽しんできた伝統行事はこれからも守りたい宇久島の文化です。



宇久島神社秋の大祭・しゃぐま棒引き

03

宇久島の宝 03

農業・漁業・畜産業などの宇久の「生業」

宇久島の主要な生業は、農業や漁業、畜産業などの一次産業。美しい海に囲まれた島ならではの新鮮な海産物や肥沃な大地で育った農作物などの食の恵みを楽しむことができます。牛が放牧される牧草地や、漁船が並ぶ漁港の風景も、生業によって守り、育まれてきた宇久島の大切な風景です。



漁船が並ぶ宇久平港

04

宇久島の宝 04

ご近所さん、子どもたち、大事にしたい「人とのつながり」

島の皆さんはほとんどが顔見知りで、どこの子どもか、どんな仕事をしているかなど、よくご存じです。また、子どもたちも宇久島の宝。島の子どもたちの成長を、島の人々で見守っています。小さい島で、協力し合って生活してきた宇久島だからこそ、これからも大事にしたい人と人のつながりです。

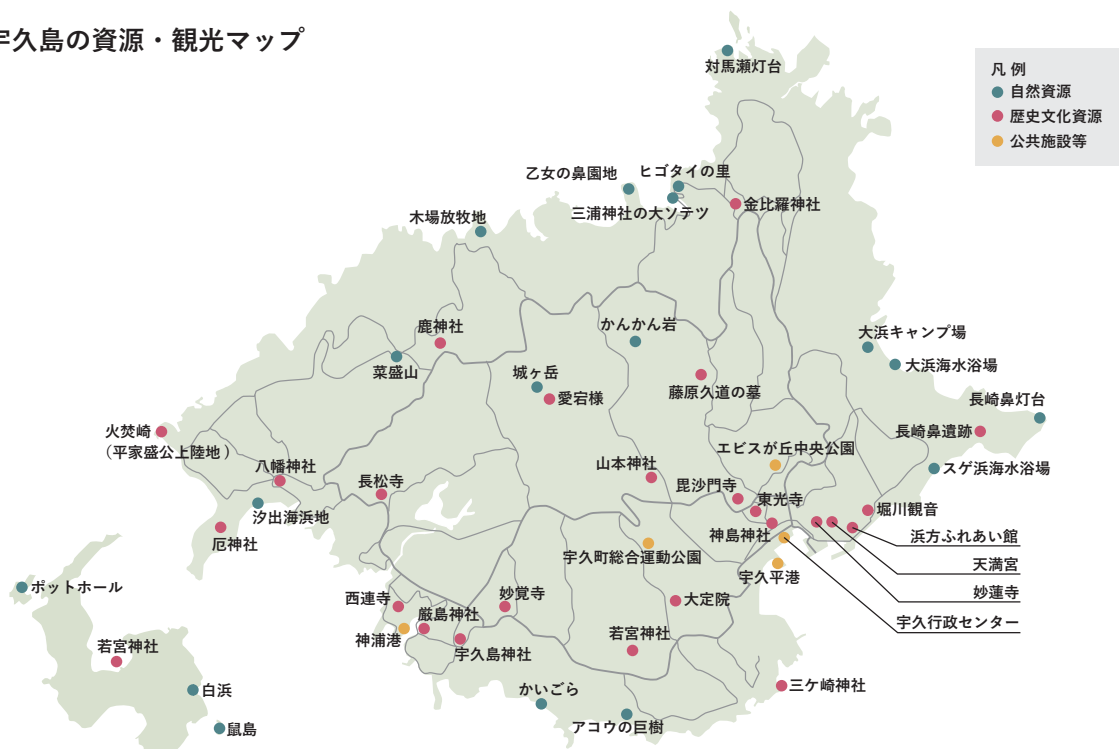
05

宇久島の宝 05

みんな顔見知りだから生まれる「安全」な暮らし

「治安」や「安全」も宇久島の宝です。ご近所さんとの密なお付き合いがあるからこそ、宅配便の預かりやおすそ分けなど、便利で安全な暮らしができています。

■ 宇久島の資源・観光マップ



2. 宇久島を取り巻く問題

▶ 全国的な人口減少問題は宇久島も同様であり、課題先進地ともいえる状況に。

人口減少問題をはじめ日本全国で生じているさまざまな問題は、宇久島にも届いています。全国よりも厳しい状況があり、解決例のない課題先進地ともいえる状況になっています。

01

宇久島の問題 01

人口減少問題。特に働く世代の減少は、島のさまざまな問題に直結します。

宇久町は 1955 年の約 12,000 人をピークに、人口減少の一途をたどっており、佐世保市内で最も人口減少が進んでいる地域となっています。現在の宇久町の人口は1,645人(R6.10)ですが、今後 20 年あまりで 1,000 人を切るところまで減少すると予想されています。特に就業機会の少ない離島であることから、これまで若者の人口流出が激しく、結果として 20～50 代の人口が非常に少なくなっています。この年齢層は、島の経済を担い、子どもを生み育てる人たちです。若者にとっても住みたくなる島、戻って来たくなる島はどんな島なのでしょうか。

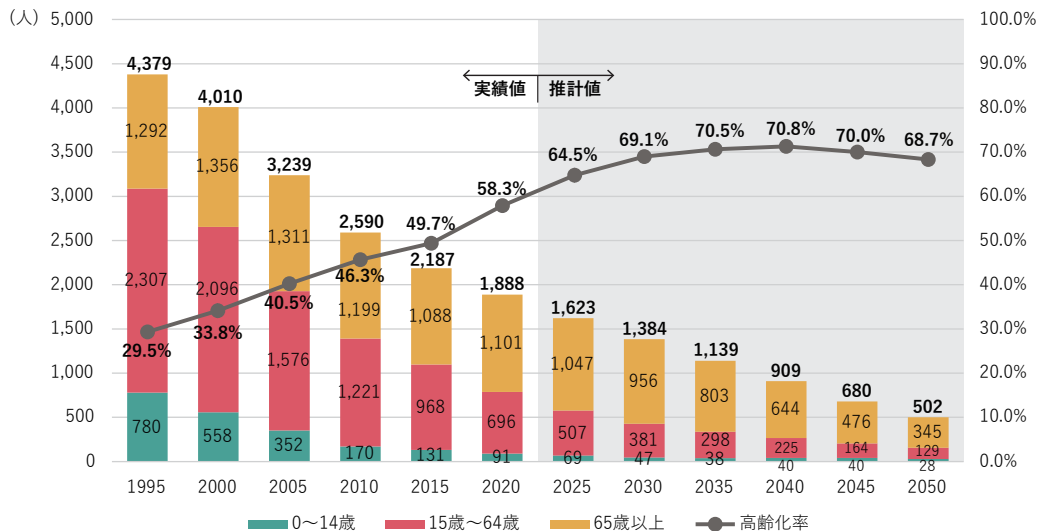
02

宇久島の問題 02

少子高齢化問題。すでに、島民の 2 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者です。

宇久町の高齢化率（65歳以上の割合）は 58.3%（R2 年国勢調査）となりました。全国平均は 29%、佐世保市平均は 31.8% であり、非常に高齢化が進んでいる状況です。集落によってはさらに高齢者が多い集落もあり、このままでは集落そのものの維持が困難になります。地域のコミュニティは周りの方々の助け合いによって支えられています。日常の暮らしだけでなく、災害時含め、多数のお年寄りを抱える地域で支え合うにはどうすべきか考える必要があります。

■ 宇久町の人口推移と高齢化率



出典：実績値は各年の国勢調査、

推計値は国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」を使用

03

宇久島の問題 03

環境問題。海と山、人の暮らしはすべてがつながっています。

地球温暖化をはじめとして世界規模での環境問題が深刻化しています。磯焼けによる伝統的なアワビ漁の衰退など海洋資源の変化や、海岸に大量に流れ着く海洋ごみ問題は、外海に面する宇久島には大きな問題となっています。また、島の中に目を向けてみても、手入れの行き届かない山林や休耕田などが増えると、景観の悪化だけでなく、災害発生の原因になる可能性もあります。海や山、人の暮らしはすべてがつながっています。私たち一人一人が宇久島をはじめ、地球全体の環境問題を考える必要があります。



漂着ゴミが流れついた汐出海浜地ではボランティアによる海岸清掃を実施

04

宇久島の問題 04

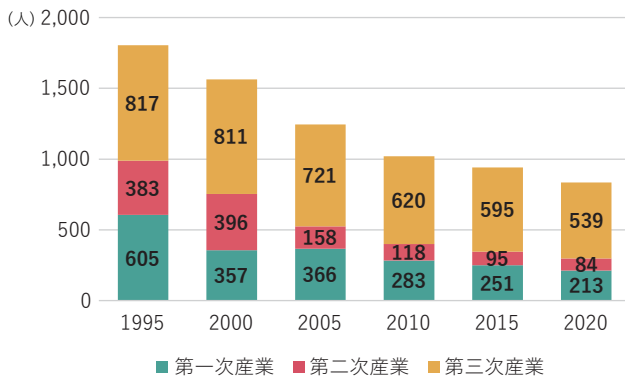
住民・民間事業者・行政が連携したまちづくりが成功のカギ。

これまでのまちづくりは、行政が主導して計画を練り、実施してきました。しかし、社会が成熟し、住民の暮らしも多様化しています。また、人口減少・少子高齢化の著しい進展や環境問題など、今までにない問題も増えています。こうした状況にきめ細やかに対応するには、行政主導のやり方では十分にはできません。そこで必要となるのが、地域を良く知る島民の皆さんの力です。これからも住み続けたい宇久島を実現させるためには、住民一人一人がまちづくりに参画し、民間事業者・行政と連携したまちづくりが成功のカギです。

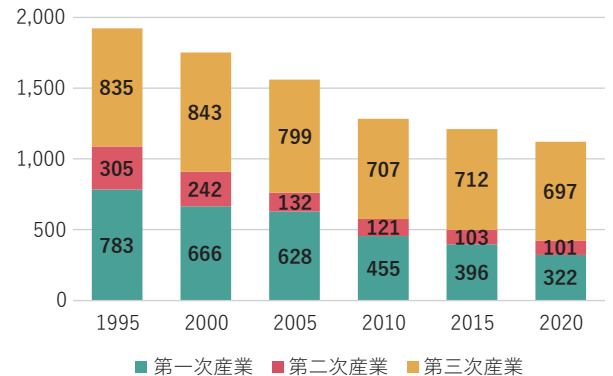
▶ 人口の維持は、産業＝仕事・生活サービスの維持につながる

人口の中でも、特に働く世代を維持することで、産業の維持につながります。第一次産業の維持により、宇久や小値賀の魅力である島ならではの風景が維持され、商業等の第三次産業の維持は、住民の生活利便性の維持につながります。宇久町と小値賀町を比較すると、宇久町は全体的に産業従事者数が減少しているのに対し、小値賀町ではその減少幅が緩やかな状況が伺えます。

■ 宇久町の産業別従事者数



■ 小値賀町の産業別従事者数



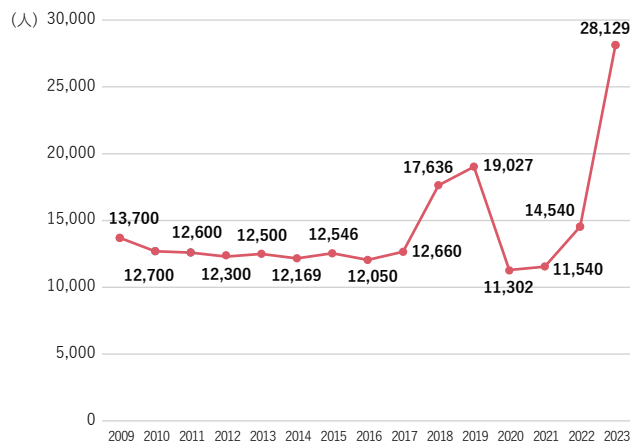
出典：各年の国勢調査

▶ 以前から多くの観光客数を呼び込んできた小値賀町

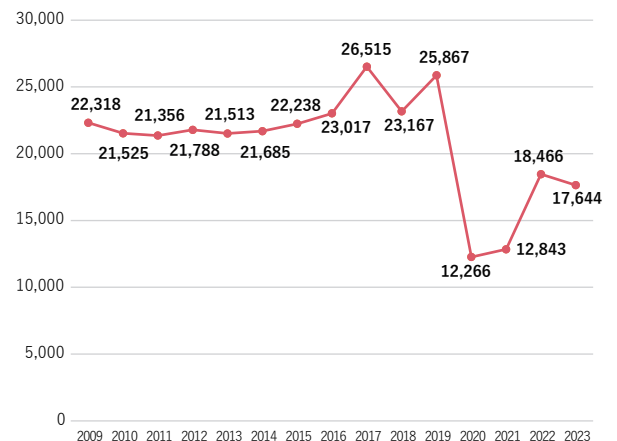
宇久町の観光客数は、船舶利用者のうち島民割引を除いた数で調査されています。観光客数にはビジネス客も含み、2023年の観光客数は、観光客向けのお得な乗船券の販売や再生可能エネルギー事業などの影響から大きく伸びています。

一方、小値賀町はコロナ禍で大きく減少したものの、以前から高い水準を維持しており、それにより認知度の向上、小値賀ファンの増加、そして移住者の獲得へとつながっています。

■ 宇久町の観光客実数



■ 小値賀町の観光客実数

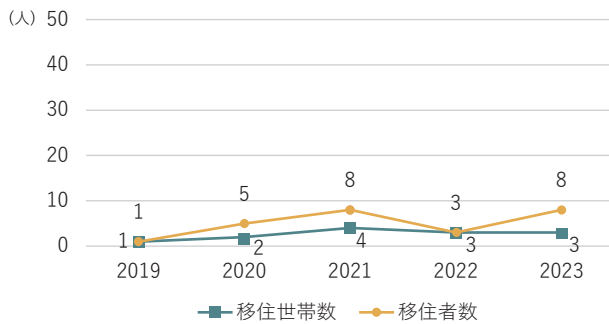


出典：佐世保市観光統計（宇久町）・長崎県観光統計（小値賀町）

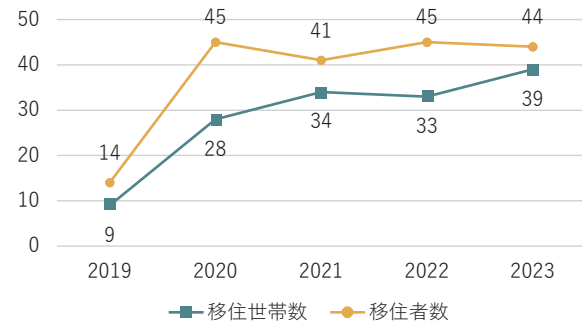
▶ 手厚い移住サポートにより移住者獲得へ

宇久町は、小値賀町に比べて移住者数は伸び悩んでいる状況です。小値賀町では定住支援によるきめ細やかな対応を現地で行うほか、空き家改修費補助や定住促進住宅の建設により新たに住まいを確保するなど、移住者の受入に向けて積極的に取り組んでいます。

■ 宇久町の移住者数



■ 小値賀町の移住者数



出典：出典：西九州させば移住サポートプラザ資料（宇久町）・ながさき移住サポートセンター資料（小値賀町）
※移住サポートを通して移住した人数

▶ 選ばれる宇久島を目指して

小値賀町では、認知度向上に向けた情報発信、観光客の誘客、上質な観光体験の提供など、小値賀ファンの獲得に長年取り組まれており、さらに、島への移住を希望する方々へのきめ細やかなサポートにより移住が実現しています。全国各地で積極的に移住促進に取り組まれている中、宇久島の課題を解決するためには、観光・情報発信、来島者へのおもてなし、住まいや仕事の確保など、「交流・関係人口づくり」に島ぐるみで取り組むことが必要です。



宇久島の玄関口・宇久平港

2. 住民アンケートから見る地域の課題

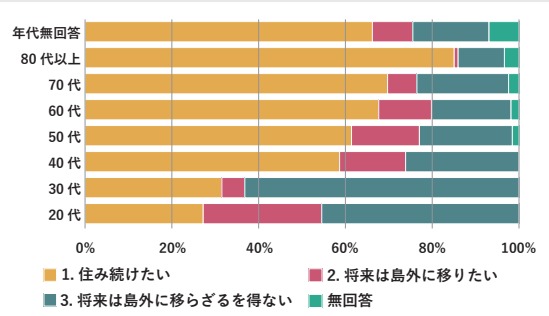
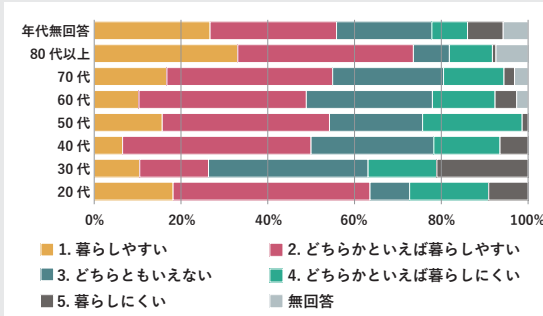
▶ まちづくりに関する住民アンケートに、半数を超える回答が集まる

本プランを策定するにあたり、島民の皆さんの想いを聴き宇久島が抱える課題を探るため、アンケート調査を実施しました。全世帯にアンケートを配布したところ、島民の半数を超える827名の方から回答をいただき、まちづくり・将来への関心の深さが伺えます。

宇久島の暮らしやすさ

▶ 若い世代は特に将来に不安を抱えている現状

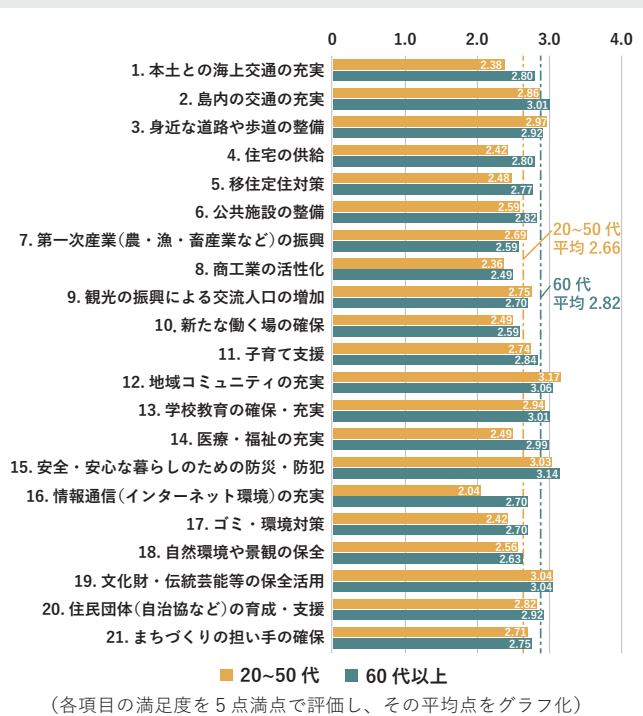
現在の宇久島の生活環境を総合的に見て、「暮らしやすさ」を伺いました。半数を超える方が暮らしやすい・どちらかといえば暮らしやすいと答え、年齢層が高い方が満足度が高い傾向でした。また、将来の居住意向については若年層の方が低い傾向がありました。将来に不安を抱える若い世代が住み続けたいと思える取組みが求められています。



宇久島のまちづくりの満足度

▶ 生活の利便性、産業振興や雇用の確保に関する満足度が低い

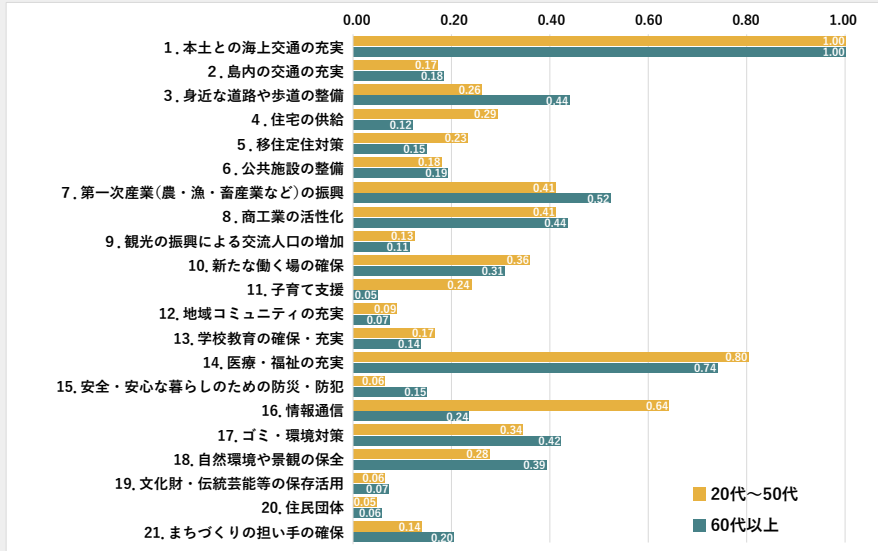
現状のまちづくりの満足度は、「防災・防犯」「コミュニティ」などは高い一方で、「海上交通」「商工業」「情報通信」「働く場」など、生活利便性や雇用確保に関する満足度が低い状況が伺えます。そのほか、世代別では、若い世代は、「環境問題」「住宅」「移住定住対策」に課題を感じている一方で、年配の方は「一次産業」に課題を感じていることが分かります。満足度の高い項目が、いまの暮らしやすさにもつながっていると考えられるため、維持する取組みが求められます。



特に優先して取り組んでほしい課題

▶「海上交通」「医療福祉」に関心が高く、世代ごとの意識の差が明確に

優先的に取り組んでほしい課題（テーマ）については、各世代で「海上交通の充実」「医療、福祉の充実」が挙げられました。世代別に違いを見ると、若い世代は「情報通信」「子育て支援」「住宅供給」「働く場の確保」、上の世代は「道路の整備」「一次産業の振興」を挙げ、大きな違いが見られました。（順位を点数化し合計。最も高いテーマを1.0とした場合の点数）

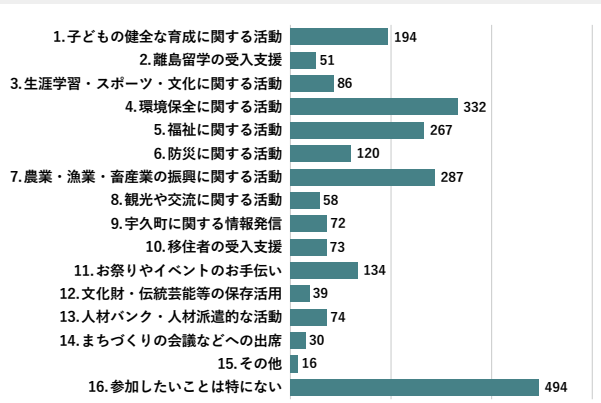
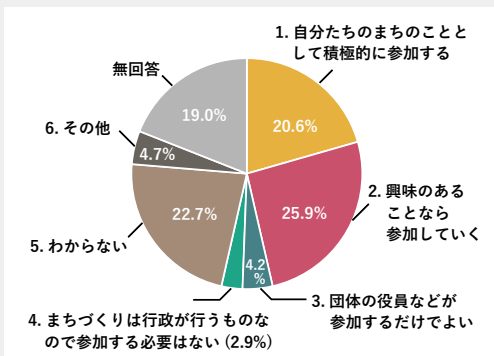


まちづくりへの参加意向/参加したい取組み

▶ 宇久島の魅力を活かした取組みが参加のきっかけに

まちづくりへの参加意向については、約半数が前向きな回答でしたが、「わからない」という方も多く、一人一人が何ができるか、島民みんなで考えていく必要があります。

参加したいまちづくりについては、「環境保全」が最も多く、「一次産業振興」「福祉」と続きます。宇久島の魅力を生かした取組みが、まちづくりへの参加のきっかけとなる可能性があります。



▶ アンケート結果をもとに、まちづくりのテーマ・具体的取組みを検討

本アンケート結果で挙げられた特に関心の高いテーマは、解決すべき課題・優先的に取り組むテーマとして設定します。また、世代間の意識の違いがあるなかで、若者から年配の方々まで幅広く意見交換し、まちづくりが実施できる体制づくりも重要なテーマであると言えます。

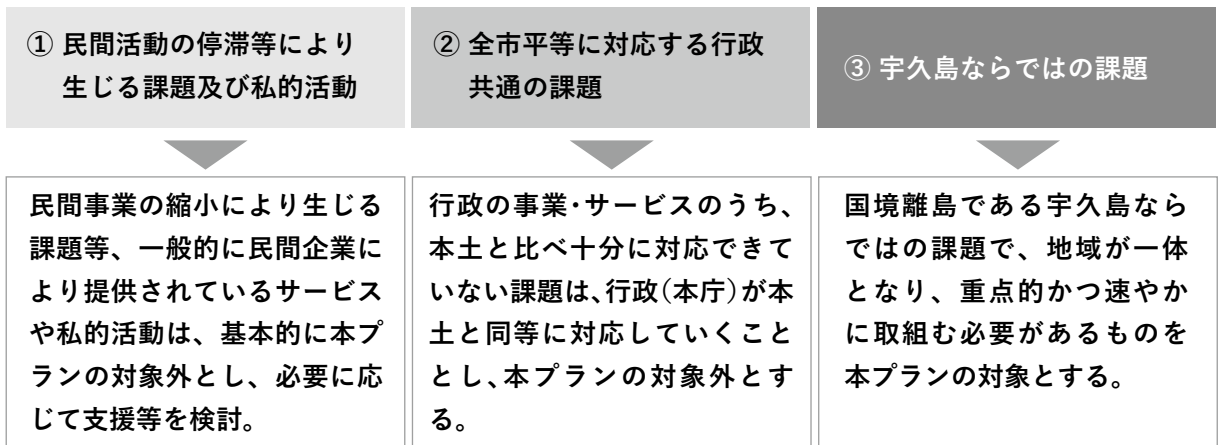
3. 宇久島が抱える課題の整理

▶ 宇久島ならではの地域課題への対応に注力

宇久島楽園ミーティングで挙げられた課題や行政に寄せられる意見・要望を整理すると、大きく3つのカテゴリーに分類されます。

1つ目は、一般的に民間の経済活動により成り立ち提供されているサービス。商圏人口や利用者の減少等による事業撤退など、他地域に比べて利便性が低いことで課題として挙げられています。2つ目は、行政が担っている全市共通する事業やサービス。地域格差を生じることなく、平等に対応するもので、本土と同様となっていない場合は、本庁各部局により本土レベルに対応することが求められます。3つ目は、宇久島ならではの課題で、重点的に速やかに実施することが必要な課題です。本プランでは、特にこの3つ目の課題について、地域住民・民間事業者・行政が連携し、オール宇久（地域一体）となって取り組むこととします。

■ 課題分類と課題対応の考え方



■ カテゴリー別のご意見・ご要望

<p>① 民間活動の停滞等により生じる課題及び私的活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット回線の整備、ネット環境が悪い、携帯電話の電波状況の改善 ・ 船賃が高い、離島航路の増便（貨物含む） ・ 燃油価格を本土並みに安くしてほしい ・ 再生可能エネルギー事業による自然破壊の危険性 ・ 働き口の選択肢がない ・ 宇久幼稚園の存続 ・ 観光客や農泊件数のさらなる増加、お土産や特産品がない ・ 伝統文化の継承、神輿の担ぎ手不足 ・ 自治協・区長会・離島活性化協議会等の連携、商工会と観光協会との連携強化、婦人会の復活 ・ 商店街を巻き込んだイベントの開催 ・ 飲食店や宿泊施設が少ない、早朝に食事できる・朝食を買える所がない、イートインスペース付きコンビニの設置 ・ 宇久観光バスを観光等幅広く活用、島周遊運行の実施 ・ 島内で化学薬品を使わないように取り組む、リサイクル推進、遊休地を使用した野菜作り体験、農機具レンタル、有機農業の実験場の整備 ・ 娯楽が少ない、遊ぶ場所がない、冬場の活動スポットがない、憩いの場・集いの場整備
---------------------------------	--

② 全市平等に対応する行政共通の課題

※【】は所管部局を記載

- ・市道・県道の維持管理（舗装、除草等）、街灯・道路灯の設置【土木部】
- ・防犯灯の設置・維持管理【地域未来共創部】
- ・公園・市営住宅の維持管理、公衆トイレ環境が悪い、和式トイレ（汲み取り）から洋式トイレ（簡易水洗）へ改修【都市整備部】
- ・学校施設等の維持管理、宇久島資料館のPR強化【教育委員会】
- ・宇久図書館は狭く、郷土関係の本が少ない【文化スポーツ部】
- ・佐世保港フェリー乗下船時の雨天時の対策、ボーディングブリッジの整備、佐世保港高速船への連絡通路の改善（バリアフリー化）【港湾部】
- ・農道の維持管理（舗装、除草等）、漁港の維持管理（照明灯交換、船の係留対策等）、一次産業の衰退や後継者不足、畜産を支える獣医師不足、牛舎建築費の高騰に対する支援、農産物のブランド化【農林水産部】
- ・専門医がない（診療科の充実、オンライン診療、定期的な巡回診療）、介護・福祉関係者不足、高齢者サービスを拡充、高齢者通院助成増額、子どもから大人までの通院助成整備（島外で医療を受けやすく）【保健福祉部】【子ども未来部】
- ・地域活動のための補助金情報がほしい【市民生活部】
- ・産業廃棄物（危険家屋含む）の島外搬出経費の負担軽減【都市整備部】
- ・漂着ごみ対策【農林水産部】
- ・宇久行政センターの権限強化【地域未来共創部】

③ 宇久島ならではの課題

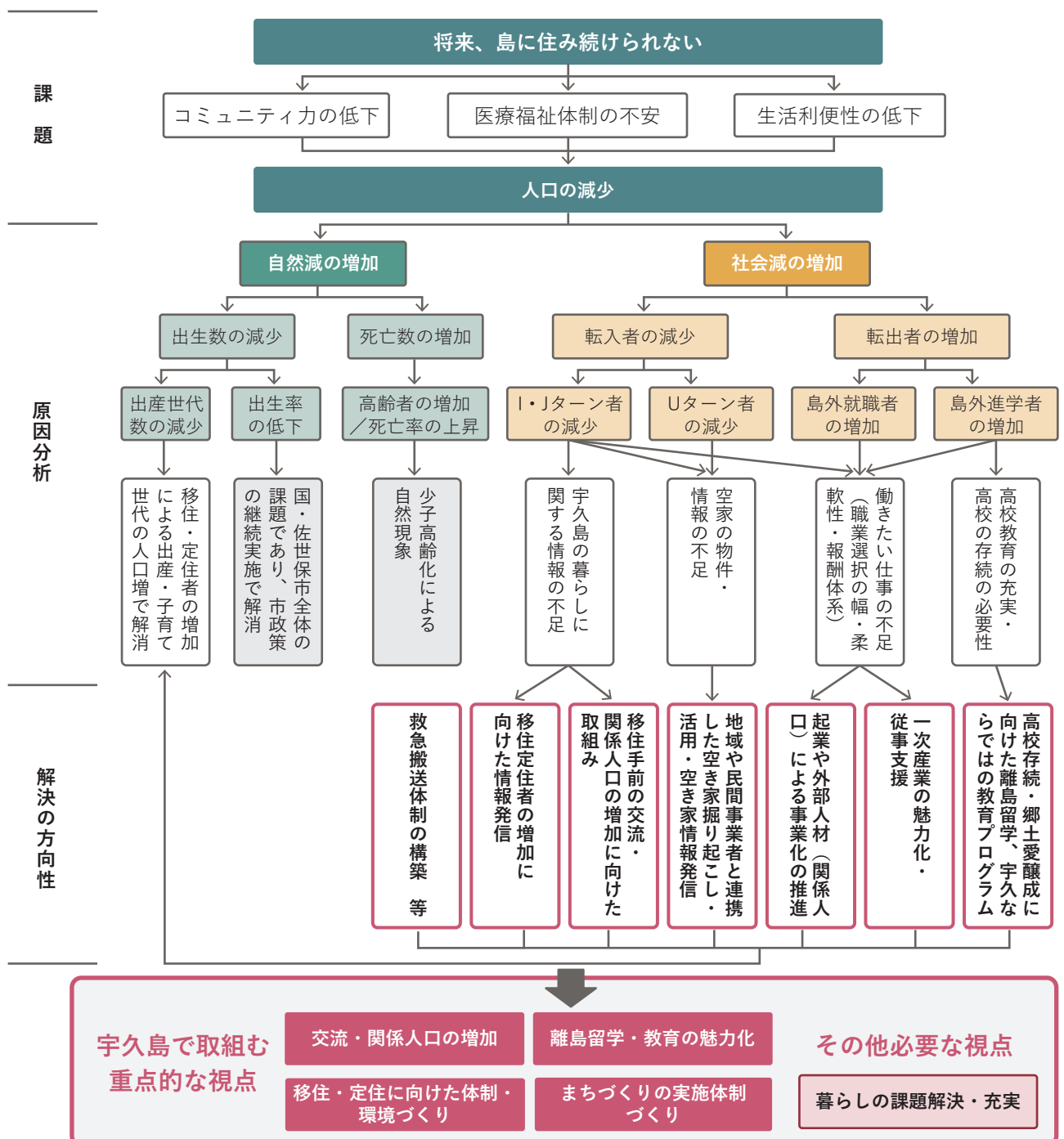
- ・有人国境離島法の延長（航路運賃の低廉化、雇用機会の拡充等）
- ・地域おこし協力隊・地域活性化起業人の導入
- ・関係人口づくりが担い手不足の解決策、大学との地域活性化の取組み
- ・全島民で来訪者をおもてなし、観光大使を活用した地域情報の発信、伝統的な祭りを観光資源として活用、島内に写真スポットを作る
- ・離島における救急搬送体制の改善、医師二人体制の維持
- ・宇久高校の存続支援（離島留学）、離島留学の早期実施、留学生用寮の必要性
- ・宇久地域の情報の一元化と発信するホームページの作成（仕事、住まい等の情報発信）
- ・行政センターに移住者のフォロー体制がない、移住者支援強化、移住者用住宅が必要、移住者も含めた住民間のコミュニティ強化、ふるさとワーキングホリデー等の実施、夏休みに来島する子どもと島の子どもの交流
- ・不動産情報が少ない、空き家の掘り起こしと活用促進、不動産業者が必要
- ・まちづくりの人材育成や組織づくり（退職後も元気に働ける人材活用含む）が急務、島民による地域活性化のための意見交換会や分野ごとの検討会等の実施
- ・宇久の玄関口（ターミナルビル）の整備（ボーディングブリッジ整備等）、早朝到着フェリーのお客がゆっくり過ごすスペースがない、ターミナルビルでの軽食の販売
- ・市営交通船で小値賀町の医療機関を受診する際の往復利用困難、欠航回数が多い

4. 解決すべき課題とその要因

▶ 将来も住み続けられる宇久島であるために

宇久島のさまざまな課題は、複数の要因が絡み合い生じています。将来も住み続けられるために必要なまちづくりの取組みを検討するにあたり、生じている問題の原因を深掘りし、解決すべき課題及び最適な解決手法の検討を行いました。特に、さまざまな課題に起因する「人口減少問題」の解決に向けたまちづくりの取組みは、「社会増」を目指すことが重要です。

そのため、解決すべき課題としては、「交流・関係人口の増加」「移住・定住に向けた体制・環境づくり」「高校存続のための離島留学・教育魅力化」を重点的なテーマ（視点）とし、併せて、地域住民が抱える暮らしの課題解決に向けた取組みを行う必要があります。



1. 宇久島の将来像

▶ 宇久島の10年後を見据えて、さまざまな人との関わり合いを増やす

宇久島楽園ミーティングでは、参加者の皆さんが期待する「宇久島の10年後の姿」をテーマに、さまざまな視点で未来の姿や未来のためにやりたいことを語り合いました。「若者でにぎわう島にするために、まずは若者たちがもっと交流できるようにしよう」「子どもたちの笑顔あふれる島であるために、高校が存続できるようにしよう」「高齢者が安心して暮らせるように助け合おう」などの意見を通して、宇久島の未来の中には、さまざまな人がこれまでよりもつながり、その輪を広げるとともに、一人一人の強みを生かして助け合うことで、宇久島をより良くしていく姿が浮かび上がりました。

宇久島楽園ミーティングやアンケートから見えてきた「宇久島の10年後の未来」のキーワード



宇久島の未来を紐解くキーワード

- ▶ 島民同士がつながる・島民と島外の人がつながる
- ▶ 海と山がつながる（産業・自然）
- ▶ 出会いを通して、つながり、広がる
- ▶ ひとりひとりの得意なことを活かし、助け合う

まちづくりの将来像

つながる、広がる、助け合う、
大人も子どもも笑顔あふれる島
～ 関係人口の創出から移住定住で活気ある島へ～

2. まちづくりの方向性

▶ 将来像実現に向けたまちづくりのテーマ

宇久島の将来像の実現のため、課題分析の結果や宇久島楽園ミーティングでの意見を基に、大きく8つのまちづくりの方向性（テーマ）を設定しました。これらテーマに基づいた取組みを主に推進していきます。特に、重点的な視点（赤囲み）に関連するテーマについては、優先度の高いものを重点プロジェクトと位置づけ、積極的に推進していきます。

将来像	視 点	テーマ	方 針
つながる、広がる、助け合う、大人も子どもも笑顔あふれる島 関係人口の創出から移住定住で活気ある島へ	交流人口・関係人口の増加	1. 観光資源の再発見と体系的な情報発信	宇久島が有する豊かな地域資源を見つめ直し観光資源として活用。それら魅力を積極的体系的に情報発信することで認知度を高め、観光客や関係人口・移住希望者を引きつける宇久ブランドを育てます。
		2. 宇久島を支える関係人口の増加	地域住民の温かい受入れにより島内外の深い関係性を生み出し、宇久島ファンの増加を目指すとともに、宇久島のまちづくりへの関心を高め、宇久島での起業など新たなチャレンジを支える環境をつくります。
	暮らしの課題解決・充実	3. 交通・移動環境の整備	観光客を迎え入れるとともに、島民が安心して移動できるよう、交通拠点をはじめとする移動環境の改善に取り組みます。
		4. 移住者にやさしいまちづくり	移住者の増加・安定的な受入れに向けて、移住者に紹介できる住まいの確保や仕事等の情報を発信するとともに、住民一人一人が移住者を温かく受入れ、相談・交流ができる環境をつくります。
	移住・定住に向けた体制・環境づくり	5. 環境にやさしく持続的な一次産業	島の主要産業であり魅力でもある農業・漁業・畜産業の持続化と仕事の創出に向けて、移住者を含む担い手確保や遊休農地等の活用、PR・販売促進等により、宇久島の生業や島の姿を守ります。
		6. 医療・福祉体制の確保	島民が健康で、地域で支え合いながら暮らすとともに、移住希望者が安心して移住できるよう、福祉・医療体制の確保を図ります。
	離島留学・教育の魅力化	7. 子育て・教育体制の充実	子どもたちが安心して暮らせるよう、子どもを地域ぐるみで育てる環境の維持・充実を図ります。特に、宇久高校への島外からの離島留学生の受入体制づくりに取り組みます。
		8. まちづくり体制の再構築	地域が一丸となってさまざまなまちづくりの課題解決に取り組むため、既存の組織の連携強化・コミュニティの再構築により、持続可能なまちづくりが推進できる体制をつくります。

※ : 宇久島で求められる重点的な視点

3. まちづくりプランの目標

▶ 人口減少率を佐世保市・本土並みに

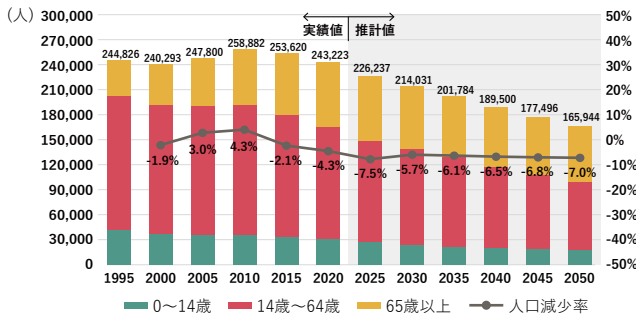
人口減少は全国共通・佐世保市全体の課題であり、宇久島内の取組みだけで解決することは困難な状況です。そのため、計画の目標設定にあたり、人口減少は前提として受け入れつつ、宇久島の暮らしを守るための最低限の人口を維持することとし、計画期間は概ね10年間とします。

まちづくりプランの目標 (KGI)

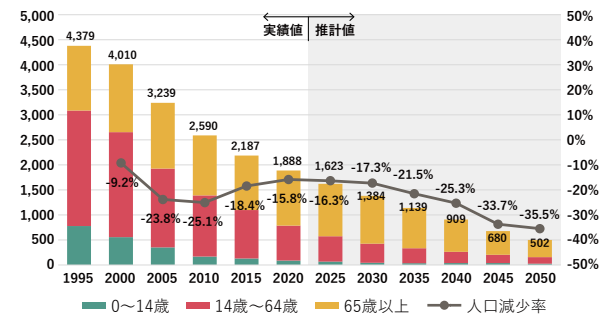
第7次佐世保市総合計画に掲げる目標に合わせ、佐世保市全体と同等の人口減少率にまで引き上げることを目標とします。(令和3～5年の本市の推計人口減少率の年平均約1.3%減に近づける。)

指標 (KGI)	2024 (R6) 年 (2024.4.1時点)	2034 (R16) 年
宇久町の人口	1,644人	1,445人

■ 佐世保市の人口推移と人口減少率



■ 宇久町の人口推移と人口減少率



出典：実績値は各年の国勢調査、推計値は国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3 (R2 国調対応版)」を使用

目標を達成するための指標 (KPI)

本プランの目標 (KGI) の達成に向けての指標として、下記の指標 (KPI) を設定します。下記の指標のほか、各テーマに基づく取組みの推進によりKGIの達成を目指します。

指標 (KPI)	短期 (2025~2027年)	中・長期 (2028~2034年)	関連テーマ
宇久島ホスト ファミリー登録制度 ゲスト登録件数	60件	200件	1 観光・情報発信 2 関係人口増加 3 交通環境整備
移住世帯数	3世帯/年	10世帯/年	4 移住・定住 5 一次産業振興 6 医療・福祉
宇久高校の 離島留学生の 入学者数	5名/年	5名/年	4 移住・定住 7 子育て・教育
プランに基づく 住民・民間主体の まちづくり取組み件数	5件/年	5件/年	8 まちづくり 体制

1. 将来像実現に向けたまちづくりの取組み

Thema 1

観光・情報発信

観光資源の再発見と体系的な情報発信

宇久島が有する豊かな地域資源をあらためて見つめ直し、資源として活用。それらの魅力を積極的体系的に情報発信することで認知度を高め、来訪者や関係人口・移住希望者を引きつける宇久ブランドを育てます。

重点プロジェクト

▶ 宇久島のPR・情報発信

観光での来島や移住のきっかけは、まず宇久島を知ってもらうこと。住民一人一人でもできるSNSによる情報発信を促進するとともに、島の観光情報・暮らしの情報・魅力的な人などを体系的にまとめたポータルサイト「宇久島公式ホームページ」を整備し、積極的に情報発信を行うことにより、宇久島の認知度を高めます。また、ターゲットや島のアピールポイントを絞り込んだ情報発信、フォトジェニックスポットの探索や新たな設置により、より効果的な情報発信を図ります。

▶ 来訪者へのおもてなし・声掛け

島を訪れた方の多くは、地域住民の温かいおもてなしにより宇久ファンになり、再訪のきっかけとなっています。住民一人一人が来訪者に対するおもてなしや声かけの意識を持ち、つながり続けることが重要な取組みです。

必要な取組み

▶ 観光地の清掃活動・環境保全と新たな観光の創出

宇久島の宝である美しい砂浜も、漂着ゴミの増加によりマイナスな印象を持たれてしまう状況があります。定期的な海岸清掃・環境美化活動の実施のほか、観光地トイレの維持管理の徹底と老朽化による設備不良等の改善に向けて検討するなど、美しい観光地づくりを推進します。また、ボランティアリズム（ボランティア観光）や来島者（釣り客等）と多様な関わりをつくる新たな観光の創出も図ります。

▶ 島外の方々を呼び込む伝統的な祭りやイベントの開催

宇久島の魅力の一つであるお祭りなどの伝統的行事は、地域住民の方々だけでは維持が難しい状況があります。島外の方々を積極的に受け入れ、一緒に活動したり、楽しんだりしていただけるお祭りやイベントを開催し、関係人口の創出にもつなげます。

▶ 観光客受入れ増加のための宿泊施設の充実

農泊のさらなる推進や古民家ゲストハウスの立地誘導等、多様な来訪者を受け入れられる宿泊施設の充実を図ります。

Thema 2

関係人口増加

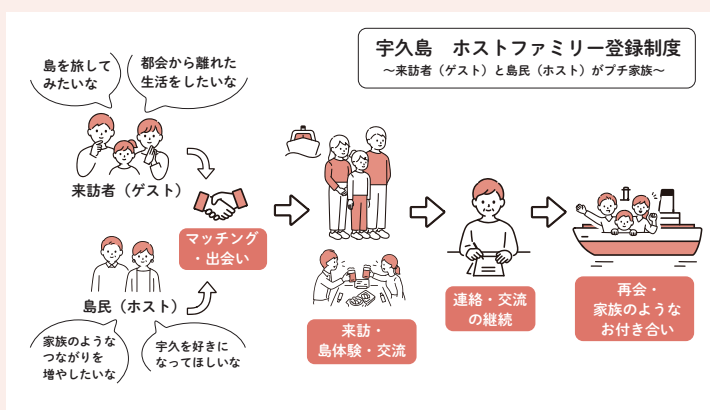
宇久島を支える関係人口の増加

地域住民の温かい受入れにより島内外の深い関係性を生み出し、宇久ファンの増加を目指すとともに、宇久島のまちづくりへの関心を高め、宇久島での起業など、新たなチャレンジを支える環境をつくります。

重点プロジェクト

▶ 宇久島ホストファミリー登録制度による島民との豊かな関係構築

関係人口の増加に向けては、観光で訪れた方との関係性を継続していくことが最も重要となります。宇久島への来訪を希望している方（ゲスト）と宇久島を好きになってほしい島民（ホスト）とのマッチング制度の実施によ



り、来訪時のおもてなしや宇久島の情報交換、文通等、継続的な関係性の構築を行い、登録いただいたゲストを第二市民（仮称）と認定することも図ります。制度の実施にあたり、広く周知・情報発信を行い、島民のホスト登録やおもてなし活動を積極的に推進します。

▶ ふるさとワーキングホリデー（大人の島留学）の構築

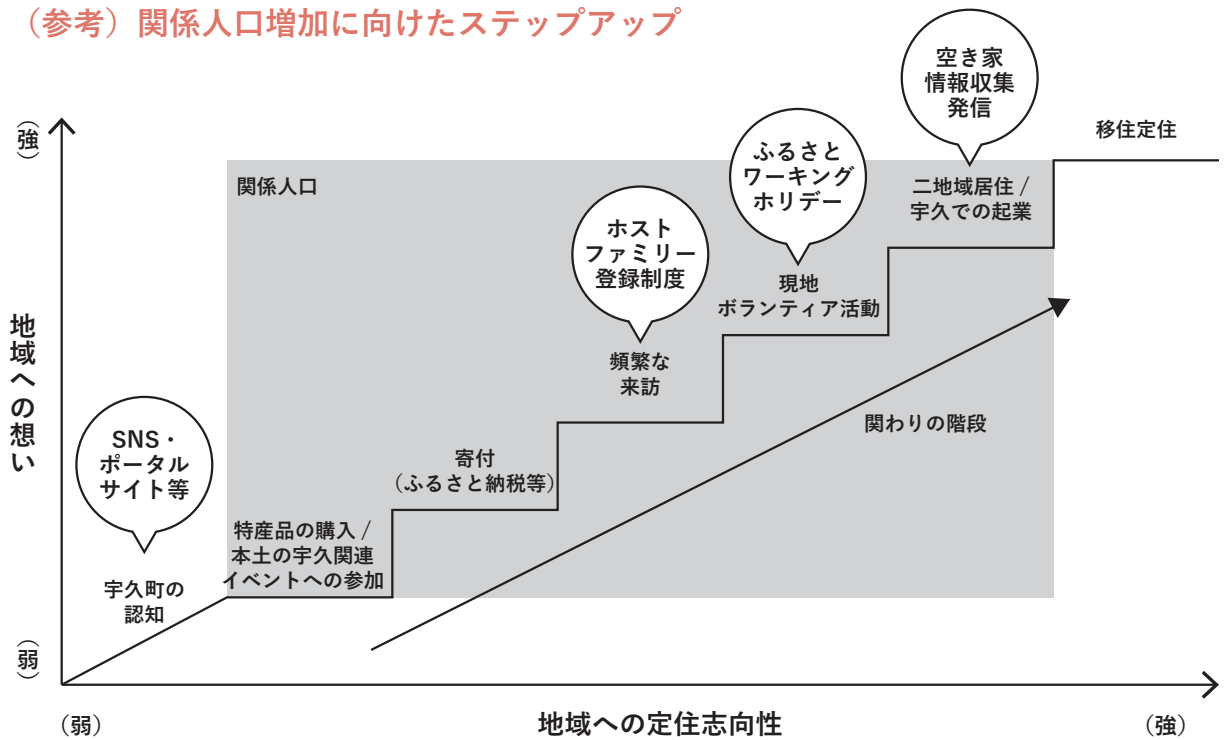
島を訪れる方々の中には、島ならではの暮らしの体験や、島の課題解決のお手伝いをしつつ、島の生業や風習等を学ぶことに関心のある方々もいます。短期的な滞在期間の中で、島民の方々が求める人手となり、産品や体験等をギフトとして提供する「ふるさとワーキングホリデー」のプラン構築・実現を図ります。

必要な取組み

▶ 二地域居住等の推進

関係人口の創出や拡大が期待できる二地域居住や二地域活動について検討を深め、地域活性化につながる施策の展開を図ります。

(参考) 関係人口増加に向けたステップアップ



参考：田中輝美著「関係人口をつくる」をもとに加筆

Thema 3

交通

交通・移動環境の整備

観光客を迎え入れるとともに、島民が安心して移動できるよう、交通拠点をはじめとする環境の改善に取り組めます。

必要な取組み

▶ 宇久島の玄関口の環境整備

宇久平港ターミナルビルは、宇久島の玄関口であるとともに、島民の通院等にも利用される重要な交通拠点です。現在、情報発信について十分でない部分が多いため、できるだけ早急に対応します。また、ボーディングブリッジ化など施設改修については、「市公共施設適正配置・保全計画」に従い、計画的に検討を進めていきます。

▶ 市営交通船（寺島・小値賀航路）の利用促進

佐世保市営交通船「みつしま」は、宇久島と寺島を結ぶ唯一の交通手段として、また、宇久（神浦）～小値賀をつなぐルートとして、常に利用者の視点に立ち安全安心な運航を行うと同時に、適宜、運航ダイヤの見直し等も行い、利便性を向上させながら、今後も航路の維持・利用促進に努めます。

▶ 島内公共交通の維持・利用促進

宇久観光バスによる島内周遊バスの運行など、観光需要に応じた運行の検討のほか、地域の足としては、デマンドバスの運行等、島内の公共交通の維持・利用促進等を図ります。

移住者の増加・安定的な受入れに向けて、移住者に紹介できる住まいの確保（空き家活用）や仕事等の情報を発信するとともに、住民一人一人が移住者を温かく受入れ、相談・交流ができる環境をつくれます。

重点プロジェクト

▶ 住まいの確保対策（空き家活用）

宇久島には不動産事業者が存在しないこともあり、賃貸・売買情報が本土に比べてほとんどなく、住宅供給も少ない状況です。一方、島内には多くの空き家が存在しています。移住希望者が住まいが見つからずに移住を断念するケースが発生しており、空き家の情報収集整理・活用が喫緊の課題です。移住者の住まいを確保するため、空き家（公共施設含む）の掘り起こしと整備活用・支援、情報提供体制の整備を積極的に推進します。

▶ 仕事の創出及び仕事情報の収集・発信

移住を検討する上で、住まいと同様に重要なのが仕事です。宇久島では人手不足の産業もありますが、ハローワークのように情報として整理されておらず、マッチングが十分にできていない状況があります。仕事情報の収集・発信の仕組化を行い、島民・移住希望者に対して適切な情報発信を行います。

また、宇久島では、有人国境離島法に定める「雇用機会拡充事業」により、雇用増を伴う創業又は事業拡大を行う民間事業者を支援できることから、移住定住の課題となっている産業のテコ入れを応募条件として提示するなど、民間活力を生かした移住促進に向けて、これまで以上に積極的に制度を活用します。

▶ 移住希望者の受入れ・移住者との交流の機会づくり

移住希望者が移住を検討する際には、実際に暮らしている方々や移住者の声を求めています。移住希望者と島民が気軽に交流できる場や、移住後の交流の機会づくりを行うとともに、これまでの移住支援を検証し、支援のあり方について見直しを図っていきます。例えば、お試し住宅の周知強化と移住者との交流をセットとした「移住体験ツアー」の実施や、住まい探し期間の居住を確保するためのお試し住宅等の増設を図ります。

島の主要産業であり魅力でもある農業・漁業・畜産業の持続化と仕事の創出に向けて、移住者を含む担い手確保や遊休農地等の活用、PR・販売促進等により、宇久島の生業や島の姿を守ります。

必要な取組み

▶ 一次産業の担い手育成と遊休資産等の有効活用

一次産業である農業・漁業・畜産業の担い手を確保・育成するため、県・市の支援制度に関する情報提供や、技術習得に向け農漁業者等からの指導体制について検討します。

また、移住者をはじめ、自然豊かな宇久島での野菜栽培や米作り、海原に乗り出す漁を希望する方に向けて、円滑に就農就漁ができるように、高齢化等の諸事情により離職された農漁業者の遊休資産（例：漁船、漁具、牛舎、農機具、農地等）のリスト化を図るとともに、貸借を希望する方へのマッチングを検討します。

▶ 宇久島ならではの農水産物の生産と特産品の販売促進

宇久島ならではの農水産物（例：潮風を活かしたミネラル農産物・繁殖牛のたい肥を活用した環境にやさしい農産物、オーガニックな農業等）の生産を通して、宇久島の農水産物の特産品（加工品含む）の販売促進を検討します。

Thema 6

医療・福祉

医療・福祉体制の確保

島民が健康で、地域で支え合いながら暮らすとともに、移住定住者が安心して移住できるよう、医療・福祉体制の確保を図ります。

必要な取組み

▶ 医療提供体制等の確保

島内外を通じ、医療提供体制の維持・確保を図ります。

また、島民の疾病の早期発見・早期治療等を目的として、健（検）診事業を継続して実施します。

▶ 子どもから高齢者までつながる集いの場づくり

子どもから高齢者まで生まれ育った地域で、いくつになっても自分らしく、生き生きと暮らすことができるように、誰もが気軽に集い交流できる場づくり（空き施設等の活用）を図ります。

Thema 7

子育て・教育

子育て・教育体制の充実

子どもたちが安心して暮らせるよう子どもを地域ぐるみで育てる環境の維持・充実を図ります。特に、県立宇久高校への離島留学制度導入が令和8年度に計画されており、高校は地域にとって重要な存在であり、島外からの離島留学生の受入体制づくりやおもてなしについて、地域一体となって積極的に取組めます。

重点プロジェクト

▶ 離島留学生の受入体制の構築

宇久高校への離島留学生の受入れのため、ホームステイ型のしま親の確保や離島留学生在滞する住環境整備支援などのほか、しま親・離島留学生を支援するサポート体制、離島留学を希望する家族との交流など、地域ぐるみの受入体制を構築します。

▶ 宇久島ならではの教育プログラムの充実

離島留学生だけでなく、地元の児童・生徒も含め、宇久島の郷土愛の醸成のため、魅力ある教育プログラムの実施を支援します。離島留学制度導入を契機に、入島式や離島式等の島民との交流の場づくり、宇久島の文化・暮らしを体験する機会づくりなど、第二の故郷として今後も関わり続けるきっかけづくりに取組みます。

Thema 8

まちづくり体制

まちづくり体制の再構築

地域が一丸となってさまざまな地域課題の解決に取り組むため、既存の組織の連携強化・コミュニティの再構築により、持続可能なまちづくりが推進できる体制をつくります。

重点プロジェクト

▶ まちづくりの検討や推進を行う組織の再構築及び定期的な意見交換の実施

さまざまな地域課題を解決するためには、地域住民によるまちづくり体制の構築が不可欠であり、まちづくりやコミュニティに関わる既存団体との連携を強化し、地域一体となったまちづくりを推進します。

また、まちづくりに関心のある島内外の関係者との意見交換会を定期的を実施し、情報共有やすみ分け、役割分担などを行います。

▶ まちづくりを担う人材・組織の育成・支援

本プランに定めるまちづくりの取組みの推進に向けて、島民の意識改革と人材育成を図り、まちづくりに携わる人材の確保に向けて取組みます。

また、持続可能なまちづくりの実施に向けて、地域おこし協力隊の配置のほか、地域活性化起業人制度や地域企業人材支援事業の活用等を視野に入れ、まちづくり団体の自立的・主体的な活動に向けた組織づくりを支援します。

▶ 住民・民間主体のまちづくりの推進

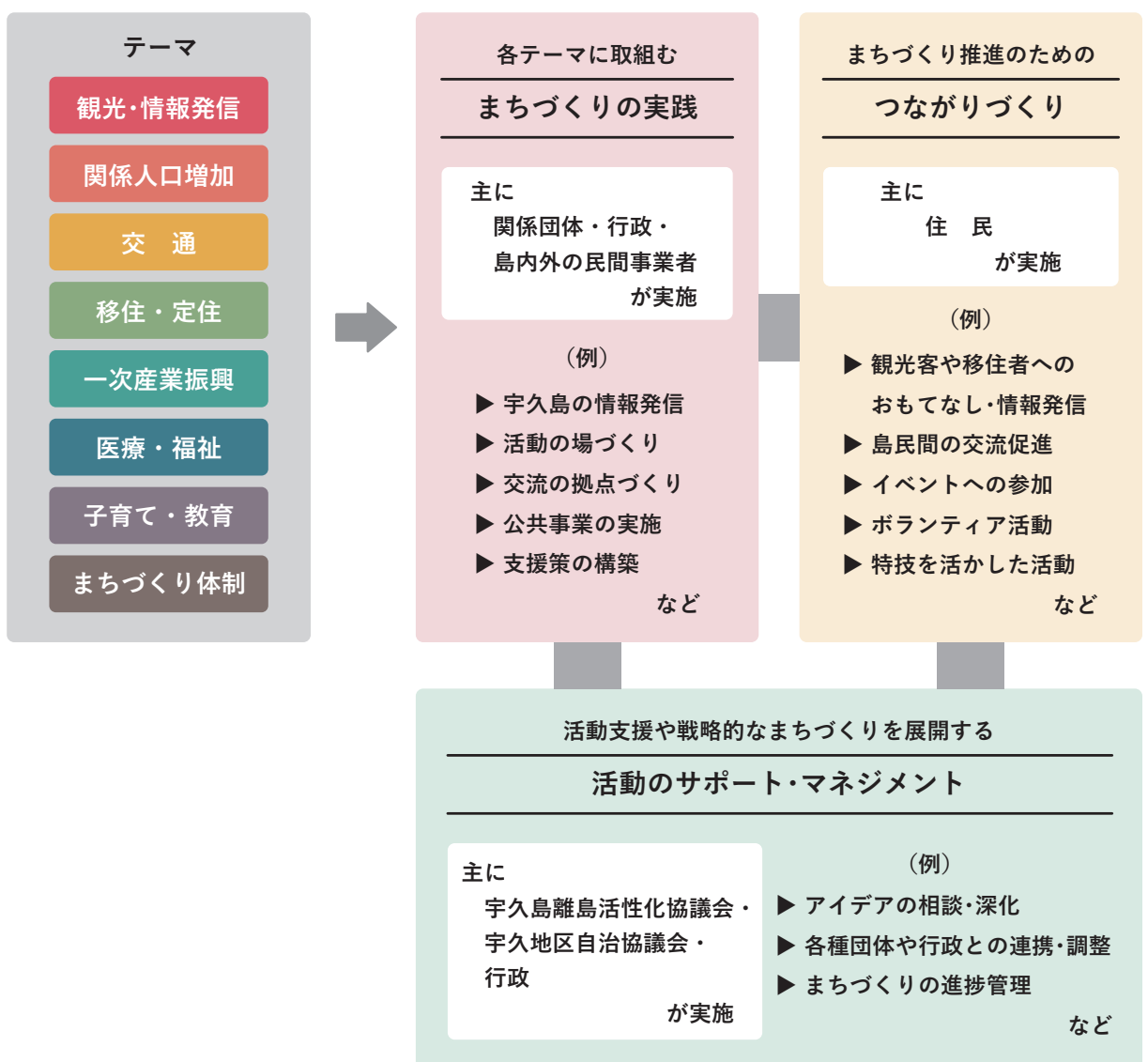
地域の課題解決に向けた、地域住民や民間事業者の主体的な取組みを強力に推進するため、本プランに基づく事業提案に対する支援策を構築します。

1. 将来像の実現に向けた3つの柱

▶ 住民総出によるまちづくりの推進が必要

各テーマに基づくまちづくりの取組みは、テーマを横断して展開されるものもあれば、単独で取り組まれるものもあります。いずれの場合でも、住民をはじめさまざまな人が活動できる場づくりが重要になります。住民一人一人には、特に来訪者への「おもてなしの心」を持ち、さまざまな活動に参画・協力することが求められ、それらを実践することでよりよい成果が生まれます。

また、宇久島離島活性化協議会や宇久地区自治協議会には、各テーマで実践される取組みを把握し、必要に応じて支援・マネジメントを行うことが役割として求められ、住民総出によりテーマごとの取組みの充実を図ることが必要です。



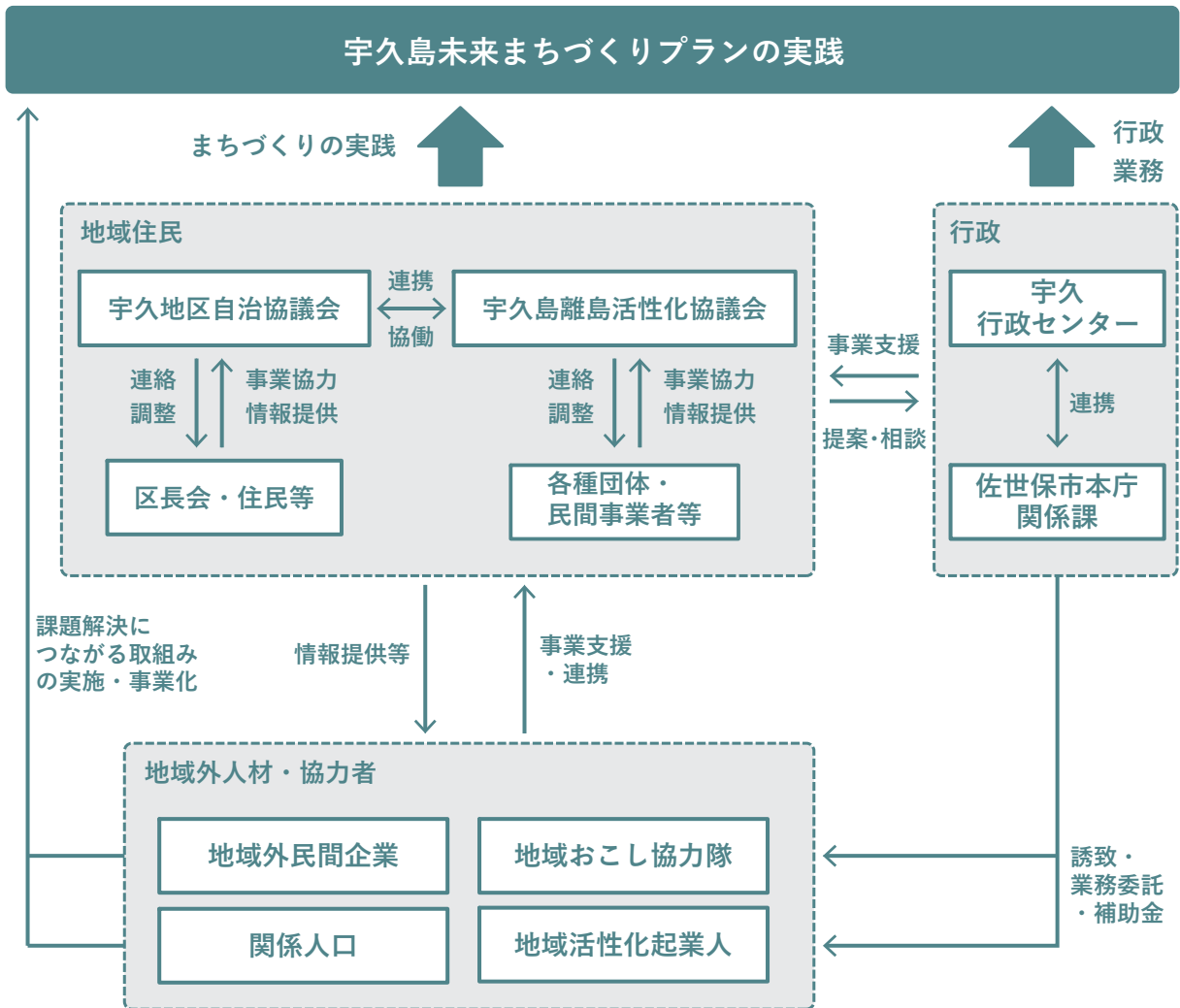
2. まちづくりプランを実施する推進体制

▶ 地域住民・行政・地域外人材の連携によるまちづくりの実践

将来像の実現に向けて、各種団体の集まりである宇久島離島活性化協議会、地域住民等のコミュニティ組織である宇久地区自治協議会や区長会が連携するとともに、それぞれが持つ特徴・機能に応じた役割分担により、まちづくりを実践します。また、行政にしかできない業務は引き続き行政センターを中心に、本庁の関係課との連携を強化し業務を遂行するとともに、同協議会等が実施する取組みに対して必要な支援を行います。

人材が不足する宇久島においては、まちづくりに関心のある地域外の民間企業や個人の役割も重要であり、活躍の場づくり・きっかけづくりなど、必要な支援を行います。

■まちづくりの推進体制





3. 実現までのロードマップ（工程表）

▶ 将来像の実現に向けて、小さくできるところから積み重ねる

重点プロジェクトをはじめ、地域課題の解決や目標達成のためには、一歩ずつできるところから着手し積み重ねていく必要があります。重点プロジェクトや取組みのアイデアを大きく分けると、地域資源に関する情報収集や発信を行う「宇久島のいまを知る」ステップ、具体的なまちづくりの実践のフェーズである「新たなまちづくりへのチャレンジ」、持続可能なまちづくりに向けた「住民主体のまちづくりの自走化」と、段階を経て将来像の実現を目指します。

▶ 確実な実施に向けたP D C Aサイクルによる評価・検証

まちづくりの実施にあたっては年に1～2回、定期的に宇久島離島活性化協議会・宇久地区自治協議会・行政において進捗や対策を確認し、事業を推進します。また、社会情勢や宇久島を取り巻く状況は日々変化をしています。3～4年ごとにこれまでの取組みの確認・評価を行い、進捗状況に応じてまちづくりプランの見直しを適宜実施します。

期間	短期 (2025年～2027年)	中・長期 (2028年～2034年)	
重点プロジェクト	▶ 宇久島のPR・情報発信 ▶ 来訪者へのおもてなし・声掛け		
	▶ 宇久島ホストファミリー登録制度による島民との豊かな関係構築 ▶ ふるさとワーキングホリデーの構築・実施		
	▶ 関係人口とのまちづくりの推進・支援		
	▶ 空き家情報の収集・発信／整備活用・支援 ▶ 仕事の創出及び仕事情報の収集・発信 ▶ 移住希望者の受入れ・移住者との交流の機会づくり ▶ 移住支援のあり方検討／移住支援		
	▶ 離島留学生の受入体制構築 ▶ 宇久島教育プログラムの充実	▶ 離島留学生の受入体制の拡充・強化	
	▶ まちづくりの検討や推進を行う団体・組織の再構築	▶ 地域外人材等との連携強化	▶ 団体・組織の自走化
	▶ まちづくりを担う人材の確保・育成 ▶ 住民・民間事業者からの本プランに基づく提案事業の支援		
	その他の取組みに関する考え方	<div style="text-align: center;">  <p>宇久島のいまを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報の収集・発信 ・島内外の協力者の確保 ・島の魅力づくり ・まちづくり体制の構築 ・これまでの取組みの継続 </div>	<div style="text-align: center;">  <p>新たなまちづくりへのチャレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの実験的な取組み ・移住者や離島留学生の受け入れ促進 ・島内外との交流の促進 </div>

1. プラン策定までの流れ

▶ 島民の方々が集い、約2年に渡りプランの内容について議論

宇久島未来まちづくりプランの策定に向けて、宇久島離島活性化協議会の各分野・世代の委員や一般公募によるメンバーが集い「宇久島楽園ミーティング」を開催。約2年間、8回のワークショップを通して、島民の皆さんが主体となって計画の内容を具体化しました。

■ 令和5年度の取組み

日程	内容	実施概要
R5.6.24	宇久島 未来予測報告会	宇久島の現状分析や未来予測の結果について発表会を開催。人口が20年後にはおよそ半減する予測になるなど、住民主体のまちづくりの必要性や問題意識を共有。
	R5年度 第1回宇久島 楽園ミーティング	未来予測報告会の内容をもとに、宇久島への思い（心配・期待・取り組むべきこと）に関する意見交換を実施。プラン策定に向けた今後の進め方について話し合う。
R5.8.28	長崎県立大学・ 地元学発表会	大学生が「漁業」「畜産」「暮らし」「観光」をテーマに、地元住民が講師となり学生が研究した成果について、発表会を開催。大学生の視点で掘り起こされた身近な島の魅力について発表。
	R5年度 第2回宇久島 楽園ミーティング	学生による発表をもとに、大学生が掘り起こした島の魅力に対する気づきを共有。島の「あるもの探し」と島の未来に関する意見交換を実施。
R5.9.26	R5年度 第3回宇久島 楽園ミーティング	宇久島の関係団体とそれぞれの関係性について、連携の有無や期待する組織等、島の強み弱みが見える化（地元天気図ワークショップの開催）。その後、島を活性化するための3本柱について意見交換を実施。
R5.11.11 ～11.12	宇久島レゴワーク ショップinふれあ い産業まつり	島内の小・中学生、県立大学生により「レゴワークショップ」を開催。レゴブロックを用いて「未来の宇久島」を手作りし、ふれあい産業まつりで発表・展示。
R5.11.28	R5年度 第4回宇久島 楽園ミーティング	これまで意見交換した内容をもとに、必要な取組みについてのアイデア出しを行い、「島の将来のため、いつまでに、誰が何をやるのか」について意見交換を実施。



■令和6年度の取組み

日程	内容	実施概要
R6.9.26	R6年度 第1回宇久島 楽園ミーティング	<p>【長崎県立大生・地元学発表】R6年度は、宇久島への移住者へのヒアリングや高校生へのアンケートを通して、移住促進に向けた提案について発表。移住者や高校生たちの声から、今後の宇久島で必要な取組みのヒントを得る。</p> <p>【ワークショップ】昨年度の楽園ミーティングの振り返りから始まり、ワークショップでは、宇久島の10年後の将来がどのような姿になってほしいのか、そのために何ができるのか、など、将来像について意見交換を実施。</p>
R6.10.21	R6年度 第2回宇久島 楽園ミーティング	これまでの楽園ミーティングをもとに整理したプランの全体像や目指すべき将来像、取組みのアイデア等について意見交換を実施。
R6.9	～島の未来を共に描こう！～宇久 まちづくりアンケート	島民の皆さんの声を集めるため、まちづくりに関するアンケート調査を全戸配布により実施。感じている課題やまちづくりに対する満足度などについて聞き取りし、島民の半数を超える回答あり。
R6.11.10	島で必要な取組み へのご意見募集 in ふれあい産業 まつり	ふれあい産業まつりの中で、大学生の地元学発表の展示を行うとともに、楽園ミーティングの結果を報告し、これから宇久島で必要と感じる取組みのアイデアについて、投票による調査を実施。
R6.11.30	R6年度 第3回宇久島 楽園ミーティング	これまで挙げられた取組みのアイデアをより具体化するため、テーマ毎に班に分かれ、意見交換を実施。優先度の高い取組みを選定し、その目標や課題、体制を検討するとともに、中長期的な今後の展開イメージについても共有。
R6.12.19	R6年度 第4回宇久島 楽園ミーティング	楽園ミーティングの成果としてまとめた計画素案を一つずつ確認し、意見交換しながら、より良い計画づくりを行った。計画の名称も皆で話し合い、「宇久島未来まちづくりプラン」に決定。
R7.1.23	宇久島未来 まちづくりプラン 策定報告会	完成した計画案についての報告会を開催し、宇久島離島活性化協議会や宇久地区自治協議会の委員・理事など、約40名が来場。計画案についての意見交換を行い、計画の方向性について了承。



2. 用語集

磯焼け	海藻類が減少し、岩場が荒れた状態になる現象。温暖化や過剰な漁業活動の影響で、海藻を食べる動物が増え、海藻が減少することで、海の生態系が崩れることを指します。宇久島では磯焼けによりアワビなどの漁獲量減少が課題となっています。
オンライン診療	医師と患者がインターネットを通じて行う診察のこと。診察や処方、健康相談を遠隔で受けられるため、離島地域をはじめ、移動が困難な人々に便利です。
関係人口	住んでいなくても、その地域に対して何らかの関わりを持ち、継続的につながりを持つ人々のことを指します。例えば、観光リピーター、地域内にルーツのある人、地域づくりに参加する人、企業の支援者などが該当します。関係人口は、地域経済の活性化や社会的なつながりを強化する重要な存在として注目されています。
ゲストハウス	宿泊施設の一つで、他の旅行者と共同で過ごすことが特徴です。安価で、共有スペースで旅行者同士または地域住民との交流ができるため、その地域ならではの文化体験を求める旅行者などに人気があります。
公共施設適正配置 ・保全計画	地域の住民ニーズに合わせて公共施設を最適に配置し、適切に維持管理するための計画。限られた資源で効率的に公共サービスを提供する目的があります。
雇用機会拡充事業	特定有人国境離島地域において、雇用増を伴う創業又は事業拡大を行う民間事業者に対して、その事業資金の一部を補助することにより雇用機会の拡大を行い、移住・定住の促進を図るものです。
再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、自然環境から得られるエネルギー源です。持続可能なエネルギー供給のために重要視され、環境負荷の低減に貢献します。
自然増・自然減	自然増とは、出生数が死亡数を上回る人口増加の状態を指し、自然減はその逆で、死亡数が出生数を上回る状態。
しま親	島外在住の生徒が島の家庭にホームステイして学校に通学する離島留学制度において、留学生を受け入れる島の里親のこと。
社会増・社会減	社会増とは、移住や転入が転出を上回ることによって人口が増加する状態を指し、社会減はその逆で転出が転入を上回ることによって人口が減少する状態。
地域おこし協力隊	都市部から人口減少が著しい地域に移住し、その地域の課題解決やまちづくり・観光PR、地域住民の支援などの活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組み。
地域活性化起業人	三大都市圏に所在する企業と地方圏の地方自治体が、協定書に基づき、社員を地方自治体に一定期間派遣し、地方自治体が取組む地域課題に対し、社員の専門的なノウハウや知見を活かしながら即戦力人材として業務に従事することで、地域活性化を図る取組み。
定住促進住宅	定住促進住宅は、地方や過疎地域への移住を促進するための支援策として提供される住宅。低価格で提供され、移住者の生活支援や地域への定住を助けます。

デマンドバス	利用者からの事前予約に基づいて、必要な場所に運行されるバスのこと。公共交通機関が不便な地域で、利用者の需要に応じた効率的な移動手段を提供します。
二地域居住	都市と地方の2つの地域に住むライフスタイル。都市での仕事と地方での生活を両立させ、自然環境を享受しながら生活の質を高めることを目的に二地域居住を行う方が増えています。
フォトジェニックスポット	写真映えする美しい景色や場所のこと。観光地やイベントなどで、多くの人々が写真を撮りたくなるような魅力的な景観が特徴です。
ボーディングブリッジ	船への乗り降りのため、ターミナルと船を直接つなぐ通路のこと。船内へバリアフリーでスムーズに移動できるため、利用者の利便性を向上させます。
ボランツーリズム	旅行を通じてボランティア活動を行う形態の観光。旅行者が現地の社会貢献活動に参加し、地域支援を行いながら異文化を体験します。
有人国境離島法	国境に近い離島に人が継続して居住できるように国が積極的に関与し、領海や排他的経済水域を保全することを目的としています。航路・航空路の運賃低廉化、輸送コストの支援、滞在型観光の促進、雇用機会の拡充といった各種施策が実施されています。
離島留学	島外（主に都市部）の学生が離島地域での教育を受けるために、離島に暮らしながら地域の学校に通学する留学スタイル。島の豊かな自然や文化、あたたかさにふれることで、第2のふるさととしての思いを育て、生涯にわたり、しま親、友人、島民とのぬくもりのある交流を生み出すことを目的としています。
ふるさとワーキングホリデー	長期休暇中に、特定の地域を旅行・滞在しながら一定期間働くプログラム。特に若者が地方で仕事をしながら生活し、地域住民との交流を通してその地域の文化や習慣を学ぶことができます。
ワークショップ	特定のテーマに基づいて参加者が集い、主体的に意見を出し合い、参加者同士で協力し合い、課題解決やアイデアを創出するための体験型の会議。
KGI	KGI（Key Goal Indicator：重要目標達成指標）は、プロジェクトの最終的な目標達成度を測る指標。事業やプロジェクトの成功を評価するために用いられ、定量的に設定されるのが特徴。
KPI	KPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）は、業績を測定するための重要な指標。KGIで定めた目標に向けて進捗状況を追跡し、成功を評価するために用いられます。
PDCAサイクル	PDCAサイクルは、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）の4つの段階を繰り返すことで、継続的な改善を目指すマネジメント手法です。計画やプロジェクトにおける品質向上に活用されます。
SNS	SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）は、インターネット上で利用者同士が情報を共有し、コミュニケーションを取ることができるサービス。Facebook、X（旧 Twitter）、Instagram、YouTube、TikTokなどが代表的なサービスです。

宇久島未来まちづくりプラン

2025年3月発行

【発行】

佐世保市地域未来共創部
宇久島離島活性化協議会
宇久地区自治協議会

【編集】

佐世保市 地域未来共創部 宇久行政センター 産業建設課

〒857-4901 長崎県佐世保市宇久町平 2581 番地 5

TEL : 0959-57-3113

FAX : 0959-57-2412

Mail : u.sangyo@city.sasebo.lg.jp
